

那須野ヶ原土地改良区連合（栃木県）

『米と電気は自分でつくろう!』をモットーに、
フィールドに存在する資源を積極的に活用し、
受益者負担の軽減に貢献



左から
渡邊監事、西岡理事、渡辺理事長、島田理事、星野専務理事

組織の概要

面積：4,257.41ha
組合員：3,202人
理事：25人（うち女性員外3人）
監事：3人（うち女性1人）
職員：14人（うち女性5人）

通常
の理事
登用方法
：所属6土地改良区から選出された議員
（土地改良区毎に定数）の中から、選任
（土地改良区毎に定数）しているため、
女性役員はすべて員外理事とした。
※理事定数25人中、員外理事5人

登用までの流れ

選挙制 ・ 選任制

令和4年3月28日 定款変更（定数増、員外規定）
3月28日 総会にて選任
4月12日 理事就任
（任期：令和8年4月11日）

ほしのえみこ 星野恵美子理事



経歴
役場職員を経て、連合へ就職。
事務局長、参事を歴任し、平成
30年度から専務理事に就任

理事になって思うこと
（男女共同参画について思うこと、課題や解
決のためにできることなど）

地方の素晴らしい景観などに
は農村地域の営みが欠かせず、
「農業」は人の命の根幹である
ことや「食料安全保障」に対す
る重要性を再認識してほしい。
そのような感覚を共有し発信す
るロールモデルとなるためにも
「自立し発信できる土地改良区
等」を目指したい。

女性理事登用を進めるための秘訣（女性側からの、これから進めよう
とする土地改良区へのアドバイス）

男女は個性と理解し、命の原点である『農』を支え
るべく、互いに協力しあえる環境整備が喫緊。

星野さんが理事を引き受けるまで



事務局

※どのように説得したか。
氏の視点による新たな土地改良区
を目指す試みは、今後も当組織に不
可欠との意向を伝えた。



星野理事

※引き受けた決め手。
いわば強引な形で理事に選任され
専務理事に就任。長年の事務局長職
の経験を活かせればと引き受けた。

わたなべみちたろう 渡辺美知太郎理事長より

※女性理事登用を進めた動機やきっかけ。女性理事への期待。これから進めようとする土地改良区へのアドバイス。
正直、国からの通達を拝見して、土地改良区連合という立場からは早急な女性登用は難しいと判断したが、
専務理事から「いずれ、目標達成しなければならぬのだから早い方がよい。今後、達成できなければ定期検
査などで指導されることになり得る。」との意見を受け早急な実現に至った。
その結果、多様性は農業農村社会の大きな機動力となり、女性役員への期待が膨らんだ。

しまだはるこ 島田晴子理事



経歴
女性農業士会執行役員、同副
会長、那須塩原市農業委員を歴
任。令和4年度から員外理事に
就任。

理事になって思うこと
（男女共同参画について思うこと、課題や解
決のためにできることなど）

理事会などへ参加するだけで
なく、地域の子どもたちへ食育
活動の一環として「水の大切
さ」を伝えることができたらと
思います。

女性理事登用を進めるための秘訣（女性側からの、これから進めよう
とする土地改良区へのアドバイス）

小さな土地改良区においては、積極的に女性役員
登用を促す役職員不足も懸念されるので、行政の積
極的な関与が必要。

島田さんが理事を引き受けるまで



事務局

※どのように説得したか。
当組織単独事業として行っているバ
イオマス活用推進に対し、ご主人が
貢献。夫婦で関わってほしいと説得。



島田理事

※引き受けた決め手。
私が理事になることが、女性の社会
参画の礎になればと思って、お引き受
けしました。

那須野ヶ原土地改良区連合（栃木県）

『米と電気は自分でつくろう!』をモットーに、フィールドに存在する資源を積極的に活用し、受益者負担の軽減に貢献



左から 渡邊監事、西岡理事、渡辺理事長、島田理事、星野専務理事

組織の概要

面積：4,257.41ha
組合員：3,202人
理事：25人（うち女性員外3人）
監事：3人（うち女性1人）
職員：14人（うち女性5人）

通常理事：所属6土地改良区から選出された議員
登用方法（土地改良区毎に定数）の中から、選任（土地改良区毎に定数）しているため、女性役員はすべて員外理事とした。
※理事定数25人中、員外理事5人

登用までの流れ

選挙制 ・ 選任制

令和4年3月28日 定款変更（定数増、員外規定）
3月28日 総会にて選任
4月12日 理事就任
（任期：令和8年4月11日）

にしおかともこ 西岡智子理事



経歴
15代続いてきた実家の米農家を継ぎ、現在は農泊施設「花園創」を運営。令和4年度から員外理事に就任。

理事になって思うこと（男女共同参画について思うこと、課題や解決のためにできることなど）

農泊という消費者と近い環境を活かし、先人たちが守り、受け継いできた「疏水」への感謝と感動を消費者目線で外に発信できればと思います。

女性監事登用を進めるための秘訣
（女性側からの、これから進めようとする土地改良区へのアドバイス）
星野専務理事からの理事就任依頼に際し、農業への思いに共感して引き受けたように、魅力的な組織の形成や人材の確保が重要。

西岡さんが理事を引き受けるまで

※どのように説得したか。
事務局 那須野ヶ原地域における那須野ヶ原用水の上流・下流の繋がり、成り立ちや組織の地域に及ぼす効果などを説明した。

※引き受けた決め手。
西岡理事 「米農家として、地域の水のことを知りたい。歴史まで紐解きたい。」と思っていた矢先に、お声がけいただきました。

事務局長より

※登用によって土地改良区に生じた変化。これから進めようとする土地改良区へのアドバイス。
当初、執行部理事はもとより反対意見が多かったが、実現してみれば、会議の席上はじめ各種研修会等の雰囲気は従来より柔らかくなったように思う。
男性中心に行ってきた土地改良区等の運営に対し、いきなり女性が参入することは戸惑いも多々あることと推察するが、比較的すんなりと受け入れられた経緯から、『案ずるより産むが易し』率先垂範、進めるべきと思う。

わたなべよりこ 渡邊和子監事



経歴
連合所属土地改良区の元事務局長で、近年は農業委員なども務める。令和4年度から員外監事に就任。

監事になって思うこと
（男女共同参画について思うこと、課題や解決のためにできることなど）

日本三大疏水のひとつである那須疏水を管理する当連合は視察の受入が多く、それを継続することが大切だと思っています。
また、那須疏水施設群が世界かんがい施設遺産に登録されるなど、携われることを誇りに思っています。

女性監事登用を進めるための秘訣
（女性側からの、これから進めようとする土地改良区へのアドバイス）
積極的に女性登用に奔走される役職員の存在が最も重要で大事な秘訣。

渡邊さんが監事を引き受けるまで

※どのように説得したか。
事務局 監事という役職は重責のため、長年の事務局長職の経験を以って当組織にご尽力戴きたいと説得。

※引き受けた決め手。
渡邊監事 40年以上土地改良に携わってきた経験を生かせると思い、お引き受けしました。

小山用水土地改良区（栃木県）

令和4年3月、女性監事1名就任に続き
令和5年6月、女性理事2名就任
～持続可能な農村づくりを目指して～



左から 古田土監事、猪瀬理事、福田理事長、三國理事

組織の概要

面積：951ha
組合員：2,018人
理事：17人（うち女性員外2人）
監事：3人（うち女性1人）
職員：5人（うち女性3人）

通常の記事：13選挙区から候補者として選出され選挙
登用方法 会にて決定している。

登用までの流れ

選挙制 ・ 選任制

令和4年1月運営委員会：監事選定基準の見直し
3月 理事会：監事選定基準の見直し承認
総代会：任期満了により選挙会
女性員外監事1名就任
6月 理事会：女性理事登用について説明
令和5年2月 理事会：女性理事登用について承認
3月 総代会：定款変更：定数増、員外規定
5月 理事会：員外女性理事2名推薦
6月 選挙会：員外女性理事2名就任
（任期：令和8年3月31日）

いのせよしこ 猪瀬芳子 理事



経歴
市役所に39年間勤務
（農業委員会事務局に9年在職）

理事になって思うこと
（男女共同参画について思うこと、課題や解決のためにできることなど）
『農地整備は地域づくりの礎である』との記事を読んだ事があります。
行政職の経験を生かし、地域の役に立てるよう努めて参ります。

女性理事登用を進めるための秘訣

（女性側からの、これから進めようとする土地改良区へのアドバイス）

女性ということ、特に意識することなく、自然に登用されるようになればと思います。

猪瀬さんが理事を引き受けるまで



事務局

土地改良区と農業委員会の連携に力を貸していただきたい。



猪瀬理事

お世話になった地域の方や土地改良関係の方々への恩返しでご協力できればと思いお引き受けしました。

ふくだよういち

福田洋一 理事長より

女性役員の登用に関しては役員並びに組合員の皆様のご理解とご協力があったことです。昨今は担い手不足が問題に挙がっていて、人と農地の結び付きや基盤整備は町づくりにも繋がる重要なことです。女性目線の新たな意見を取り入れ、持続可能な町（農村）を創り、未来に残すことを第一に、地域との交流によって土地改良区の知名度向上にも一翼を担っていただけたらと思います。

みくにけいこ

三國佳子 理事



経歴
NPO法人元気フォーラム桑理事。
市民元気あつぎ塾の指導員として活躍

理事になって思うこと
（男女共同参画について思うこと、課題や解決のためにできることなど）

地域で親しまれている「大沼ため池」は憩いの場となっている反面、訪問者が水鳥に餌をあげることで水質悪化の原因となっております。今後は微力ながら水質の保全活動について発信していきたいと思っております。

女性理事登用を進めるための秘訣

（女性側からの、これから進めようとする土地改良区へのアドバイス）

土地改良区の知名度を上げていく事が大切。チラシを配布するなど、啓蒙活動をすることで、女性がかかりやすい・女性の力が必要であることを認識してもらいたいと思います。

三國さんが理事を引き受けるまで



事務局

地域住民との交流の中で、土地改良区の知名度アップをお願いしたい。



三國理事

NPO法人で大沼（農業用ため池）の保全活動もしており私にできることをやっていたらと思いお引き受けしました。

事務局長より

約1年前に古田土紀子監事を一足早く登用し、理事会の雰囲気が大きく変わったのが印象的でした。維持管理に関しても男女差なく参加をお願いし、その中でそれぞれができる作業を実践しています。性別に関係なく、必要な人材を呼び込める環境づくりを意識しなければならないと思っています。女性理事の登用には理事長のリーダーシップが大きかったのではないかと感じています。